



一人ひとりに丁寧に指導し、「寺子屋」のようなアットホームな教室



幼児・小学生を対象に、楽しいレッスンを通じて英語が身につくベネッセの英語教室

学校のワークが第一 基礎を固めて学力を伸ばす

同塾では漢検・英検・数検の取得を推奨しており、塾生のほぼ全員が受検。小学6年生で漢検3級に合格している子もいるという。

「保護者の方から、『うちの子は〇年生なんですけど、何級まで取っておいたほうがいいですか』といった質問がよくあるんですが、私は学年に関係なく、どんな上の級をめざすべきだと思っています。6級に合格したら5級の問題集を買う、5級に合格したら4級……とすると、子どももゲーム感覚で楽しくチャレンジします。内申書に書いてもらうときになって慌てて受検するより、早くから取っておくほうが本人もラクですよ」

一方で、基礎固めの大切さを塾生に説く。

●指導のポイント
学校のワークを、勉強して基礎固めをしてから、塾のワークで応用力を養う。

「まずは教科書の問題をきちんと理解しようね。定期テストの問題もそこから出るんだから。今日の授業でわからなかったところがあったら持つてきなさいよ」と声をかけ、塾のワークを優先せず、学校のワークを第一とする。というのも、基礎固めせずに難しい塾のワークをやると、逆にブレイキがかかると考えているからだ。

同塾には各学校の成績上位者が多数通い、地域トップ校をめざす生徒も多い。それに合わせ、難度の高い塾専用ワークを用意するが、「学校のワークが一番簡単なんです。簡単などころを適当にせず、段階を踏んでステップアップすることが大切。勉強に近道はありません」と強調する。

試験のテクニックとしても、確実に点が取れる問題でのケアレスミスは大敵。そういう意味でも基本を完璧に押さえておくことが重要となる。

「ワークをやって丸つけするまでは、勉強ではなく作業。間違ったところを質問して、わかるようになったり、解けるようになることが勉強です。そこを、しっかりとやろうねと生徒には口を酸っぱくして指導しています」

就職を見据え 毎年関西の大学巡りを実施



関西の大学のオープンキャンパスに参加。当時、京都大学大学院に在籍中の先輩が案内を務めた(写真は2017年)

証券会社に8年勤めた福士先生は企業の情報に明るい。また、アパレル関係の企業では人事・採用を2年経験し、面接官目線のアドバイスを送ることもできるため、学業だけでなく就職の相談に乗ることも多い。

近年は、塾生を連れて関西の大学のオープンキャンパス巡りを毎年実施。すると、京都大学をはじめ、同志社大学、立命館大学などの合格者が出てきたという。

とくに立命館大学とは良い関係を築いており、コロナ禍が少しおさまった昨年12月には、高校2年生の男子生徒と特別な体験をしてきた。

●指導のポイント
自身のあらゆる体験を指導に生かすとともに、子どもにも実体験を促し、成長を見守る。

「野球部でピッチャーをしている生徒が、『立命館の野球部を見たい』ということで視察させていたいただきました。高校野球の監督さんが生徒を連れて行くことはあっても、塾の先生が……というのは前代未聞。大学側も大変驚かれました。プロ選手を多く輩出する大学なので簡単に出入りするわけにはいかないようですが、特別に許可していただき、監督さんから直接お話を伺うこともできました」

卒業生の結婚式で鹿児島に行った際には、大分県の立命館アジア太平洋大学に立ち寄り、同大学の魅力を生徒たちに伝えたところ、塾生の一人が昨年同大学を受験し、無事合格したという。

「青森に住んでいると、大学受験はせいぜい仙台、東京までで、関西の大学はまず選択肢にありません。ただ、私の感覚では、関西の大学に進んだ学生のほうが、なぜか希望の職種に就けているので、関西圏の大学も勧めています。人生は一度きり。子どもたちには、どんな外に出て広い視野を持つてもらいたいと思っています」

ふくし英数教室に学べ!

SEMINAR セミナーレポート REPORT



ふくし英数教室(青森県青森市)
塾長 福士 明美さん

プロフィール
1960年生まれ。61歳。青森明の星短期大学で英語の中学校教諭二種免許状を取得。証券会社8年、大手アパレルメーカー2年と一般企業での勤務経験も持つ。主婦となり2人の子育てをするなかで自宅にて開塾。学校図書館司書教諭免許や教育カウンセラー初級・中級などの資格も追加取得し、2017年には、教員免許更新講習も修了済。市内小学校や準看護学校などで講師としても活躍する。

休みも惜しまず学習や人生設計をサポート 「地域で一番面倒見の良い塾」

子育ての傍ら、親戚・知人に頼まれて自宅で受験生の勉強をサポートしていたことが近所の評判となり、ママ友らの要望で塾をスタートさせたという青森のふくし英数教室。開塾から四半世紀を迎え、幼児から高校生まで生徒数は約60人の大所帯になったが、アットホームなスタイルはそのままだ。福士明美塾長は、「地域で一番面倒見の良い塾」をめざす元気で明るい先生で、生徒や卒業生だけでなく保護者からも「おばちゃん」と呼ばれ親しまれている。

英語を中心に小中高生を指導 日曜日にも質問に対応

「塾を開くつもりはなかったんですけど、うちに受験生が通っているのを知った近所のママ友から『うちの子もお願い』と依頼され、それが口コミで広がり、今に至っています。外で働くことも考えていましたが、子育て中だったので自宅で仕事ができるのは私にとって渡りに船でした」と、開塾当時を振り返る福士先生。自身も親であることから、月謝や開講時間・回数など「私ならこうしてほしい」といった保護者目線の設定でスタート。この思いは今も変わらな

現在、小学生には週2回の算数・国語と週1回の英語のコースに加え、英会話力を養うベネッセ英語教室を開催。中学生は、1・2年生は5教科を週3回、3年生は受験対策として7月以降はこれが週4回に増え、高校生には1年から大学受験を見据えた高度な英語教育を週2回行っている。

水曜日のベネッセ英語教室だけは通訳案内士の資格も持つ講師が担当するが、ほかはすべて福士先生。これだけでもフル回転に見えるが、実は日曜日にも生徒の対応をしている。

「中学の5教科を全部指導するとなると週4回でも足りません。ですから、『土曜日でも日曜日でも』

●運営のポイント
保護者目線で設定した手ごろな月謝、開講時間・回数と手厚い指導体制。

も、質問があつたら遠慮しないで聞きにおいでね」と言っています」

小学生や高校生にも同様に対応しており、こういった特別指導に追加費用は発生しない。

さらに驚くことに、テスト前でも質問に來ない生徒がいれば、「私は待っています!」と保護者に電話をかけることもあるという。

卒業生とはLINEで連絡を取り合い、週末や長期休暇、リモート授業のため自宅に戻っている現役の大学生が自主的に指導に駆けつけてくれる。彼らにとってもよいアルバイト先となっている。



自宅で塾を営む「ふくし英数教室」



理事を務めている「青森県学習塾協議会」では、昨年7月(三)「学習支援業における新型コロナウイルス感染症拡大防止策に関する要望書」を青森県に提出した